

NEWS LETTER



CONTENTS

- ・1月～3月主催事業報告
「NPO 講座IV、SDGs カフェ 2,3」
「地域の居場所づくり交流会VI」
「こたん+プラス 2022」
「市民活動の IT 支援」
- ・サポセン各種設備リニューアル!!
- ・「さぼちゃんが行く！」
特定非営利活動法人わの会
- ・お知らせ/カレンダー

#サポセンはみんなの想いでできている



連日報道される痛ましいニュースに
何かせざるにはいられない、心が落ち
着かない日々を過ごしていたとき、
利用者さんのひとりが青と黄色の2色
の折り鶴を見せてくれました。その
思いをつなぐように来館者の皆さん
が心を込めて次々と折ってくれてい
ます。一日も早く平和な世界が訪れ
ますようにと祈りながら。

■「NPO・市民活動・ボランティア」相談

誰もが自分らしく安心して暮らせる地域や社会になるように、茅ヶ崎をもっとよくしたい人たちを応援します！
どんな小さな相談も一緒に考えます（対面が基本ですが、オンラインも可）。お気軽に相談ください。

窓口、HP のお問合せフォーム、メール、電話、FAX で随時受付中。 *2021 年度相談数 122 件(3/24 現在)

★特別相談日もあります！毎月第2月曜日、13:00～16:00(事前予約制)

経験・知識を活かした
ボランティアがしたい

団体立ち上げ、
助成金申請、
運営上の困りごと

活動をひろげたい、
地域でつながりたい

サポセンの5つの機能

- ①場の提供
- ②情報の収集・提供
- ③相談・コーディネート
- ④人材の育成・交流促進
- ⑤連携・協働の推進



サポセン HP▲

Web でも市民活動に役立つ情報を発信中！

・HP

ちがさきサポセン

・Twitter

@chigasapo

・Facebook

茅ヶ崎サポセン

・Instagram

@chigasakisapocen

もっと知りたい！サポセンのこと

～市民活動応援プログラム～ 2022 年 1 月～3 月 開催報告

開催報告 NPO 講座Ⅳ「思わず参加したくなる活動の作り方、共感を得るためには…」

◇日 時：2022 年 1 月 29 日(土)14:00～16:00《オンライン開催》 ◇参加者：14 名

◇講 師：熊沢 博樹さん（海岸清掃団体 湘南ウキブイ 代表理事）



自分を見せるばかりではなく、相手を知ること

若い世代から圧倒的な支持を集めているビーチクリーン活動『ウキブイ大作戦』。今年で 16 年続くボランティア活動は、プログラムの楽しさが口コミで広がり、毎月の活動予約がすぐに埋まってしまうほどの人気です。

講座では、SNS を駆使して情報収集する Z 世代へのアプローチを中心に、団体が実践してきた具体的な戦略作りのノウハウを惜しげもなく大公開！「ケーキを食べたい人にはお団子ではなく、いろんな種類のケーキを見せる。確実にささる選択肢を準備しておく」など、イメージしやすい例えも交えて、広報や企画の立て方、組織運営のあり方まで幅広く濃密なお話をいただきました。

参加者からは、熊沢さんの活動内容や

インパクトある魅力的なスライド、語りの熱量、分かりやすいプレゼン方法にも多くの称賛をいただきました。

- ・話に引き込まれてあっというまの 2 時間でした
- ・話が楽しく、元気をもらえた ・データ分析がすごい
- ・活動費の殆どがポケットマネーということに驚いた
- ・口コミ効果、単純接触効果、雑相が大事、活動しながら考える、仕組み化等々、市民活動に際して示唆に富むコメントが多々あった
- ・音楽は思い出の宝箱を開ける鍵、失敗はメンタルではなく仕組みで解決、同じことでも言い方でポジティブに、など共感した言葉が多々あり、元気づけられた 等



第 2 回「スポーツでつながろう！」

～いつまでも元気に、楽しく住み続けられる

私たちの未来まちづくり～

◆日 時：2022 年 2 月 5 日(土)19:00～21:00

◆ゲスト：壺坂 剛さん（一般社団法人 アステム湘南スポーツソサエティ 代表理事） ◇参加者：13 名

東京オリパラで改めてスポーツの魅力を知り、コロナ禍で体力作りと人の繋がりの大切さを感じる今。競技スポーツにおけるコーチングや「生きがい」「健康」目的の生涯スポーツの多彩な楽しみ方、スポーツでの地域活性化など、参加者がカフェに期待するテーマは様々。

前半は、地域密着型で総合型地域スポーツクラブを運営する壺坂さんから参加者が知りたいことに回答する形で体験談を交えたお話を伺いました。

後半のグループワーク(語り BAR)では「運動・スポーツで私たちもちがさきも元気になろう」をテーマに、行政、企業、スポーツ・市民団体と様々な立場で活発な意見交換がなされました。「ここで出たアイデアが本当に実現すれば面白い」「立場は違うけど同じ一つの目標に向かおうとする人たちのコミュニケーションは楽しい」「心の健康アップになった」等の感想がありました。

話を聞くこと、意見交換すること、そして人と出会うことの大切さを改めて感じました。これからも交流の場を提供し、人と人の潤滑剤の役割を目指します。



第 3 回「宝物であふれるまちに

～みんなで考えよう茅ヶ崎のごみのこと～

◆日 時：2022 年 3 月 12 日(土)10:00～11:00

◆ゲスト：BENIRIGNO(田中藍奈さん、阿部汐里さん)



「こどたん+プラス 2022」Zoom ライブイベントとして、小学生からシニアまで多世代 23 名が参加しました。

はじめに、環境課題の解決に取り組む BENIRIGNO の活動紹介と茅ヶ崎のごみの現状についてレクチャーがありました。一日に出るジャンボジェット機 50 機分!!)のごみは、再利用するにも 4 億お金がかかるそうです。

グループワークでは、参加者が各自準備した、いつまでも大事にしたい「宝物」を画面上で思い出も交えながら紹介。場が和んできたところで、生活の中でごみを減らす方法についてアイデア出しをしました。

子どもたちからは「(ごみの影響で被害を受けている)かわいそうな動物たちの写真をみて人間も反省する」

「(海や川に流れついた) ごみを吸い取る機械を発明する」など発想力豊かな意見が発表されました。大人からは「容器を持って買い物に行った、昔の生活スタイルに戻る」「生ごみはコンポストに」「よく考えて、本当に必要なものだけ買う」など、実践的な意見が出されました。

最後は、BENIRIGNO の「楽しく、環境を守るライフスタイルを提案していきたい」という軽やかな言葉に、ごみ減量もみんなで知恵を出し合い、わくわくしながら取り組みそうな前向きな気持ちになりました！

◇日 時：2022年2月26日(土)14:00～17:00《オンライン開催》

◇参加者：26名

昨年に続き、今年度もオンラインでの交流会となりました。今回は申込締切日前に定員を超える盛況で、講師・事例発表者・スタッフも含め、30人を超えるメンバーで熱心に意見交換をしました。終了後も複数の方からお問い合わせをいただき、参加者同士をつなげるコーディネートのお話もありました。



守本陽一さん
守本さんも執筆されている『社会的処方』(西智弘編著、学芸出版社)はサポセン図書コーナーでも閲覧可。

ープログラムー

講演：「居場所を再考する～つながり創出の視点から～」

講師：守本 陽一さん

(一般社団法人ケアと暮らしの編集者 代表理事)

近年、高齢化が進み慢性期疾患が増える中で、地域包括ケアシステムが構築されてきました。病院は、患者と入退院の間等でしか関わらず、もっと日常に近いところで医療が関われないかということが懸案でした。そこで注目したのが、患者さんに地域のつながりを処方する「社会的処方」という考え方。まちづくりの観点から地域を見ると、空き家の増加などにより理想的なコンパクトシティではなく、都市部のスポンジ化が進行しています。守本さんたちは、こうした空き家や空き店舗に小規模多機能な場をつくっていくことで、人と人のつながりを取り戻し、現実的な都市の再生をめざしています。

守本さんの現在の拠点は、兵庫県北部、但馬地域の中心都市・豊岡市。雪深く、城崎温泉、コウノトリが有名で、最近ではアートの街ともいわれています。一方で、高齢化、人口減、過疎化が進行しており、医学生時代に市民や医療関係者とともに、この街の地域診断に取り組んだ結果、我慢して救急車を呼ばない人も多く、「医療では人を呼べない」ということを実感したそうです。

そこで6年程前から月1回始めたのが、医療側から地域へ出向いていく「屋台カフェ」。コミュニティに人を呼ぶキーワードは「楽しい、美味しい、オシャレ」。五感に訴えるようにした屋台は徐々に地域のたまり場となり、コーヒーを媒介に相談者も増え、新たに形成されたコミュニティ「小規模多機能な公共空間」では、色々な課題解決が「ゆるっと」行われています。

次に、「呼ぶ、行く、在る」という日常の居場所をつくるために取り組んだのが、「一箱本棚オーナー」制度を取り入れた「だいかい文庫」。デザイナー、介護職員、学生など、オープンまでにいろいろな人を巻き込み自分事化してもらいながら、商店街の空き店舗を手作りで改修しました。図書館であり、書店であり、「中距離のコミュニケーション」を意識(来訪者との距離感を大切に)し、スタッフは会話に入っていない人への気配りを心掛けているそうです。本の貸し借りやケアの接点としての「健康相談」を通じて信頼関係が構築され、多層的なネットワークが形成されつつあるとのことのお話がありました。



《守本さんのお話の感想》

- ・場づくりの段階から人を巻き込むこと、地域の資源を洗い出すために地域診断ができそうなこと、茅ヶ崎でもできそうなことがあってワクワクしました。
- ・地域診断(地域の人にヒアリング→データ化→地域課題・健康課題の把握)やナッジの視点、中距離コミュニケーション、属性ではなくコンテンツで区切る居場所のあり方にとても共感しました。
- ・「いきなり鉄球は受け止められない。」受け止める側だけでなく、投げる側も受け止めてくれるか見ているという、考えてみれば当たり前のことに改めて気付かせていただきました。投げてみようかなと思えるような居場所づくりや、関係作りをしていきたいと思います。

げんき基金補助事業実施中の2団体からの事例報告：

松本素子さん(ふらっと南湖)

子どもサポーター育成(里親に関する勉強会の開催)、地域の文化交流(地域の人に料理などを教えてもらい交流する)の2本柱で事業を展開しながら、社会的養護問題の解決法として、ライト級(日帰り里親)・ミドル級(ホームステイ里親)・ヘビー級(長期里親)の3ステップによる取り組みの普及に努めています。

高村えり子さん(ママほぐ)

現在の取り組みは3つ。①お母さんの居場所活動(ものづくり、体のケア、交流の場)、②産後ケア(専門家へ相談できる場、心のケアと育児技術を学ぶ場)、③茅ヶ崎市の産後のお母さんのためのポータルサイト運営です。リアルとオンラインの組み合わせにより、お母さん同士、お母さんと地域、子育て支援者間が、より豊かにつながるようになりました。

交流会では、「①居場所づくりのコツ、大切なポイントとは?」「②今後取り組みたいことは?居場所づくりに向けて明日から何をしますか?」をテーマにグループに分かれて話し合い、全体でも共有しました。

《感想》

- ・横のつながりが大事。横のつながりがあれば、発想が膨らみ、どんどん発展させられる可能性がある。
- ・茅ヶ崎には誰かの事を気にかけている人々がこのように沢山ある事に希望が持てました。弱者に対して居場所作りの活動をしている方には、いろいろな団体に関わり味方を多くして繋がっていきたいと感じました。



開催期間:2月14日(月)~3月13日(日)

こどももおとなも、多世代で楽しめる体験型交流イベント

こどたん+(プラス) 2022 オンライン



長引くコロナの影響で今回もオンライン開催となった「こどたん+」は、5つのコンテンツ企画で構成しました。

- 動画配信 86本 (参加 24 団体) ※開催期間中のYouTube「さぼせんチャンネル」の動画視聴回数は 473 回
- SDGs クイズ 52 問 (参加 9 団体)
- 遊びアンケート (サポセン企画)
- ZOOM イベント 13 件 (参加 13 団体)
- 参加団体紹介 25 (市民活動団体等) ※市役所からは社会教育課・環境政策課・秘書広報課・保健所・図書館などが参加

オンラインでいろんな体験をし、このイベントをきっかけに知り合った様々な人たちと交流しながら、あらためて“ちがさきの魅力”を知る。これからも住み続けられる素敵なまちにするために、自分にもできることを考える。

そして、ひとりひとりが新しいことにチャレンジする!…画面越し交流のもどかしさや集客の難しさはあったものの、

特に子どもたちの目覚ましいオンラインスキルの進化に助けられ、そんなキッカケづくりの場を提供することができたのではないかと思います。



イベントの様子をもう一度見たい方や、期間中に見逃してしまった方は、サポセン HP「こどたん+2022」アーカイブで、いつでもご視聴いただけます。 アーカイブ QR→



おしえて!好きなあそび むかし好きだったあそび



館内の桜が満開になりました!



▶アンケート期間:2022年1月4日~3月13日

▶回答数:134回答 (回答方法...館内119回答、Web15回答)

(年代別回答数:70代以上:53、60代:27、50代:8、40代:12、30代:12、20代:5、10代:17)

子どもだった私たちが夢中になった遊び、いま夢中になっている遊びアンケートへのご協力ありがとうございました!集まった回答から、その時代にあった楽しさを子どもなりに追究して遊んでいるんだな...と想像しました。このアンケートをきっかけに、子どもの頃に少しでもタイムスリップして当時の情景を思い浮かべたり、懐かしい会話をしたり、こんな時間を持てただけなら嬉しく思います。

▼集まった回答からふかぼりしてみました▼

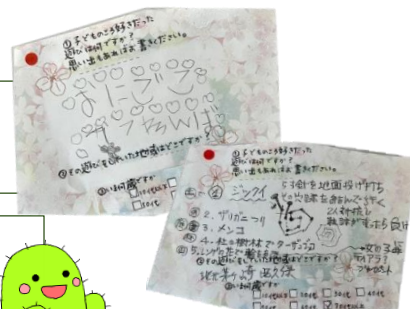
① 遊びをピックアップ

- ・40代に人気だったあそび ・こんなあそびもあった
- ・イマドキの小学生はこんな遊びがすぎ
- ・ゴムとびって、実はすごいスポーツ?!

② 遊びをしていた地域

「茅ヶ崎で遊んでいた」という方が3割ほど。それ以外の方は茅ヶ崎以外で遊んでいたんですね。

*詳細は、アーカイブを見てね♪



たくさんの回答
ありがとうございました



プラクラ <学生ボランティアチーム「さぼやんがーず」presents>

高校1年生から大学4年生の学生7名で構成された「さぼやんがーず」での活動も、無事幕を閉じました。10月から始動し1月まで毎月2回集まり、楽しく時に真剣に話し合いを重ねてきました。「私たちみたいに環境問題に詳しくない人でも、楽しみながら目を向けられる方法はなんだろう」という思いから、プラスチッククラフト「プラクラ」を考案し、学び要素と楽しい要素を詰め込んだ作り方動画を制作しました。

- ・ボランティアに興味を持つきっかけになりました!学校も学年も違う、初めて会う人たちと仲間になって作品を作り上げられたことがすごく自信になりました。
- ・企画の発案、制作、情報の発信方法の大変さを知りました。メンバーと協力してできた企画、作品なので、完成したときの達成感がとても大きかったです。
- ・大好きな茅ヶ崎でこのようなボランティアに参加させていただく機会をいただけてとても感謝しています。大学生生活最後に思い出に残る経験になりました。



動画はInstagramから
いつでも視聴できます♪



@chigasakisapocen

シュレッダーの紙などの廃材やマイクロプラスチックを使用したサポセン20周年記念アート作品も制作しました。花壇の掲示板に飾っていますのでぜひ注目してみてください!





SDGs クイズ

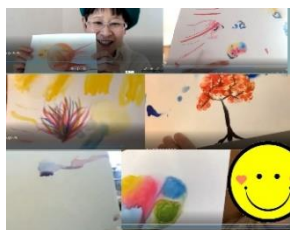
今年度のクイズは、市民活動団体が実施している取り組み活動を SDGs に紐づけ、「環境・エコ、つかう&つくる責任」「住み続けられるまちづくり」「貧困・教育、ジェンダー平等」など、それぞれのゴールに関連する問題を作成してもらいました。茅ヶ崎市からは「ちがさきエコネット SDGs キッズクイズ」の提供がありました。クイズで楽しみながら SDGs を自分事として考えてもらえる機会に…。あなたが気づいたことや自分ができることでアクションをおこしていきましょう！



Zoom ライブイベント

ZOOM 生配信イベントは前回よりも多い 13 企画。おもに家族が揃う土日を選んで実施されました。イベントへの総参加数は 189 で、これは ZOOM オンラインの参加者タイル数をカウントした数値なので、兄弟親子参加者が多かったことをふりかえると、かなりの人が関心を持って参加していただけたことがわかります。

リモートワーク推奨で各家庭に通信環境が整ってきたことや、小中学校での学習面でもオンラインツール利用が普及し、オンラインのイベントでも気軽に参加できるようになった人たちが増加していると実感しました。



コミュニケーションもスムーズに色とりどりの作品完成！



デート DV の朗読は中・高生にも参加してもらえるといいな



ライブクッキングと食育に関するクイズ実施



もったいないレシピで SDGs 食品ロスを考える

ものづくり体験型のワークショップでは、制作キットの無料配布など各団体が参加しやすいように工夫したこともあり、参加の申し込みが早々に定員いっぱい！イベント当日も申込者がほぼ全員参加するほどの大人気でした。また、今回がはじめての ZOOM イベントという団体でも、運営スタッフとの事前の連絡調整・リハーサルを重ね、当日は大きなトラブルもなく、たくさんの参加者にワークショップ体験を楽しんでいただくことができました。



おひな様づくりでたくさん子どもたちとふれあえた！



ブレイクアウトルーム利用で丁寧に手順をフォロー



万華鏡は予想以上の参加数で初 ZOOM も大満足！



イベントをキッカケにカンボジア支援活動を広報できた！

昨年に続き体を使うワークショップでは、団体オリジナル曲でのサンバや盆踊り、バレエとフィットネスとヨガの要素を取り入れ、省スペースでも運動ができるバレエを開催。その他団体コラボ企画として、音楽でまちづくり活動をしている団体の生演奏と、高齢者や初心者向けにゆる〜く楽しむフラダンス団体の連携イベントを開催し、高齢者施設の集会室から多くの利用者さんにご参加いただき、まさに多世代交流の場として盛り上がりしました。



皆でダンス！姉妹都市ホノルルとの交流エピソードもあり



オンライン初挑戦！おしゃれだけどハードなレッスン



インクルーシブな世界を共有。ZOOM の話し合いは難しい...



これからも楽しいコラボ企画を！

次回に向けたふりかえりからは、「今後もオンライン開催するのであれば、さらにレベルアップした企画を考える！」と前向きな声が聞けました。また、コロナの状況が良くなり、対面開催への期待も多く寄せられました。

開催報告 パソボラ湘南による「市民活動の PC サポート」

- ・開催期間：2021 年 4 月～2022 年 3 月
- ・講師：NPO 法人パソコンボランティア湘南
- ・開催回数：24 回（毎月第 2 月曜日、13：00～15：30）
- ・受講者数：128 名（延べ人数）

市民活動団体や自治会等地縁団体で活動する方がパソコン操作で抱えていた悩みを解決するため、さらに団体のスキルアップを目的に「市民活動の PC サポート」開催してきました。

参加した方の悩みは「ZOOM のやり方」「Word や Excel の基本操作」「チラシの作り方」

「Word に写真を挿入したい」「バックアップについて」「メールのやりかた」が多かったです。参加した方からは、「悩みが解消した!」「対面で個別に教えてくれるのでありがたい」など、好評の声を多数いただきました。

講師を務めてくださったパソボラ湘南のみなさん、ありがとうございました。



第5弾「パワーポイント活用! (中級)」

日 時：2 月 1 日(火) 13：30～17：00(対面講座)

参加者：3 名

講 師：大木伊都子さん

(NPO 法人パソコンボランティア湘南)

団体の活動を効果的に伝えるために分かりやすく整理された資料づくりのコツを学びました。「スライドマスターで一括編集」「素材の挿入」「アニメーションの設定」などひとつひとつ分かりやすく教えていただき、参加者からは満足度の高い講座だったとの声が寄せられました。

受講目的は「チラシをつくるため」「色々なテクニックが使いこなせるようになりたい」など。学んだことを復習し、よりよいチラシや資料を作り、活動の幅を広げていただけたら嬉しいです。

第6弾「ホームページ制作」

日 時：3 月 22 日(火) 13：30～17：00 (対面講座)

参加者：3 名

講 師：横溝芳明さん

(NPO 法人パソコンボランティア湘南)

自分たちで運営する HP で活動を発信し、会員やボランティアとのつながりを創り出すため、無料の Google サイトを利用したホームページ制作を学びました。

分かり難い用語の説明や操作のサポートなど参加者にあわせて進行していただきました。

参加者からは「難しいと思い込んでいた HP 作成が Google サイトを利用しこんな簡単にできるとは!」「HP 作成後、もう一度説明をききたい」など、驚きと作成に前向きな姿勢が見えた講座でした。

今後 HP で効果的な情報発信を期待しています。

館内の安全性を高めるために各種設備をリニューアル!!

2002 年（平成 14 年）の 4 月に開設されたサポセンは、まもなく 20 周年を迎えます。いままで建物・設備の機能・外観が維持され、耐久性が確保されてきているのは、利用者の皆さんが大切に使うことを始め、清掃をしてくださる業者やスタッフが日頃から丁寧にメンテナンスしてきたからだと思います。しかし、20 年にわたる使用のため、劣化・故障が発生し、機能の回復、安全性確保のため設備を交換せざるを得ない状況になり、館内の一部設備をリニューアルしました。今後も維持管理へのご協力はもちろん、省エネ（キャノピースイッチ＝必要な場所だけ照明を点灯など）の取り組みにご協力をお願いします。

①館内の蛍光灯の LED 化 (5 基)

(劣化し点灯しなくなった蛍光灯を取り換え⇒消費電力も 1/5 に)



キャノピースイッチ付！
必要な所だけ紐を引いて点灯

②エアコン（プレイルーム、フリースペース大）



館外西側の室外機は台座を大きく、より安全、コンパクトに。消費電力も 2 割減

③警備システム (ALSOK)



有事にカメラセンサーが作動！防犯に役立ちより安全安心に

その他にも建物、設備で塗装が剥がれたりサビ発生など老朽化したものを蘇らせて、利用者のみなさんに使用していただいています。

・傘立て



・玄関蛍光灯具の反射板





さぼちゃんが行く！



特定非営利活動法人 わの会

茅ヶ崎市や寒川町在住の精神障がい・知的障がいのある方々を対象に、NPO法人として2か所の事業所「茅ヶ崎ワーキングハウス」「茅ヶ崎第二ワーキングハウス」を運営。地域の一員として豊かに暮らしていくために、作業支援や生活支援をはじめ、社会参加活動や余暇活動を行っています。

《代表の松本 正さん他にお話をうかがいました》

サポートセンターの朝

私たちスタッフは、サポセンに午前9時までに出勤しますが、実はそれより前に出勤している人がいます。それが、サポセンの清掃を受託している「茅ヶ崎ワーキングハウス」のメンバーさん（利用者）です。

その清掃作業ですが、素早く作業着に着替え、まずは館内のすべての窓開けから始めます。それから、いよいよメインの男子・女子・多目的の3か所のトイレ清掃、そして約 300 m²の館内の床清掃に取り掛かります。トイレは便器、便座、手すり、洗面台ごとに用具と洗剤を使い分け丁寧に作業を進めます。床はほうきでちりを集めてから、固く絞ったモップで拭き上げます。最後に片付けや用具類を洗って、1時間ほどで終わらせます。

ベテランのIさんは、「月1回の休館日に行う床の本格清掃で、ワックスがむらなく塗れた時は嬉しい」、いつも朗らかなOさんは、「日々作業



の段取りを工夫しており、スタッフからのお礼も励みになる」、1年目のAさんは、「清掃の仕方を先輩が分かりやすく教えてくれて、よく覚えられた」などと話してくれました。

清掃の仕事は、サポセン以外にも老人ホームや市の公共施設、マンションなどでも請け負っています。残念ながら、感染対策の関係で現地取材はできませんでしたが、各施設のルールや状況に応じて皆さんが地道に作業をされている姿が目に見えます。

第二ハウスでは黙々と

冬晴れのとある日の午後、一中通りから少し入った住宅地にある「茅ヶ崎第二ワーキングハウス」にお邪魔しました。ここは二階建ての民家を使用しており、各部屋ほぼ数名ずつ、メンバーさんたちに職員も混じ



って、和やかな雰囲気の中、手際よく広告チラシの折込作業を行っていました。何種類ものチラシが大量にあるので、「大変そうですね」と尋ねると「そん

なに大変じゃないですよ」と頼もしい答えが返ってきました。

こちらでは、この他にも近隣へのチラシ等のポスティングやメール便の配達、ボールペン等の袋詰め、レンタル CD ケースのシールはがしなど様々な作業を受注しています。

「輪」と「和」を大切に

松本さんは、理事長に就任されて3年とこのことで、前任で長らく代表をされた吉川さんにも団体のいきさつ等を聞いていただきました。昭和の末頃に障がい児の親御さん3組が家に集まって支援活動を始められたのが発端で、徐々に人数も活動日数も増え、福祉会館の利用を経て、民家を借り上げることになりました。当初は1つの事業所でしたが、折しも、その頃制度化された国の支援費の支給を受け、2003年に人の「輪」や平和の「和」から「わの会」としてNPO法人を設立、活動内容により事業所を2つに分けました。現在では各20数名ほどの利用者が登録しています。

コロナ禍の今、懸案としてはまず、作品展や共同募金などの社会参加活動や、食事会や旅行会などの余暇活動が中止となり、利用者同士の交流、親睦が図れなくなったことです。法人設立20周年となる来年3月には、何とか記念行事をできれば、と考えています。

また、制度上2つの事業所は、就労継続支援B型という位置付けで、利用者への最低賃金の保証はありませんが、特に、第二ハウスでの請負作業の収益は決して高いものとはいえず、それを各利用者に工賃として分配すると…推して知るべしの状況です。

そこで、松本さんは、現役時代に製品開発を手掛けられていたノウハウを生かし、皆で作って販売できるように自主製品の事業化を構想されています。具体的には、嬉しいことがあったときに貯金する「ニコニコ箱」、楽しい絵柄の装丁で封書や葉書を入れておく「お便り箱」等々。



コロナ禍を乗り越え、まずは待望されている食事会から種々のイベントが再開され、魅力的な自主製品が軌道に乗り、さらに皆さんの生活が充実されるよう願っています。

お知らせ

■コロナ禍のサポセン利用について

～引き続きのお願い～

フリースペースや印刷機をご利用の際は、できるだけ事前予約をし、感染防止対策を講じたうえでご利用ください。
(利用時間は変更することがありますので、最新情報はサポセン HP で確認ください)



予約して、待ち時間なし
でのご利用を

印刷機は2台！～用途にあった印刷機をスタッフがおすすしめします～

①単色印刷機 Duplo...大量印刷におすすめ

ハガキ～A3 サイズ 1 製版 440 枚ごと 100 円
印刷製版代のみ、用紙別途、
インク色：黒・赤・緑・茶

②カラー印刷機 RISO ORPHIS ...とにかく安い！！

A4 サイズ以下 単色・モノクロ 2 円、フルカラー 5 円
A4 サイズより大きい 単色・モノクロ 3 円、フルカラー 8 円
(用紙含む、印刷代)

■市民活動「げんき基金」へ寄付しました

館内にて市民活動を応援する「げんき基金」への募金活動を実施しました。

・文房具類(たのくんからの贈り物)
・手作りぬいぐるみのキーホルダー } 5410 円
～みなさまの善意、ありがとうございました～

■広報ちがさき「市民の活動だより」

毎月 1 日に発行されている「広報ちがさき」「市民の活動だより」コーナーに市民活動団体のお伝えしたいメッセージを紹介しています。ぜひご覧ください。

▷3/1 号：茅ヶ崎 CAD 部
▷4/1 号：子ども応援丸
▷5/1 号：マザーアース茅ヶ崎

紙面の都合上、掲載が延期
される場合があります

■身近な情報を“声”でお届け

視覚障害者の方に公の発行物「広報ちがさき」「議会だより」「社協ちがさき」などの情報を音声に録音した CD やテープが『茅ヶ崎録音奉仕会』より毎月届けられます。館内の掲示物コーナーに置いてありますので、ぜひご活用ください。



掲示物コーナー情報

「知らせたい」「募集したい」など
市民活動のイベント情報をお寄せください。
サポセン HP や館内掲示で情報発信できます！

サポセンカレンダー

<○休館日、□館内利用制限日>

4月							5月							6月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3							1			1	2	3	4	5
4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30		23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30			
							30	31												

※最新情報はホームページにてご確認ください。主催イベント開催のため、上記以外でもフリースペースのご利用を制限させていただきます。ご理解ご協力の程お願いいたします。

ちがさき市民活動サポートセンター

開館時間 9:30～21:30 (休館日：毎月第3水曜日、年末年始(12/28～1/3))

アクセス JR 茅ヶ崎駅北口より徒歩 10 分程度・駐車場 14 台・障がい者用駐車場 1 台・駐輪場あり

連絡先 〒253-0041 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎 3-2-7 TEL/FAX：0467-88-7546

E-mail：s-center@pluto.plala.or.jp URL：https://sapocen.net/

編集・発行 認定特定非営利活動法人 NPO サポートちがさき

(指定管理期間：2021 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

サポセンキャラクター



サポセン HP